

大阪・関西万博 2025 着物ショー参加の記録

— 自作の浴衣を着て歩いて —

白坂 文

2025年4月13日に開幕した大阪・関西万博は184日間の会期を終え閉幕した。大阪・関西万博は、各国の体験・体感型パビリオンに加え、民間の団体が様々な発信や交流ができるフェスティバル・ステーションを設けている。

このフェスティバル・ステーションにおいて、大阪府美容生活衛生同業組合主催のファッションショーのオープニングアクトとして、大阪着物プロジェクト主催の着物ショーが開催され、本学ファッションデザインコース2年生がランウェイを歩いた。

学生はオリジナリティー溢れる浴衣を自身でデザイン・制作し、浴衣の着こなしアレンジやヘアメイクのデザインも行った。またランウェイの構成や自身の浴衣紹介のMC原稿についても大阪着物プロジェクトと産学連携し、自分たちの手で着物ショーを創り上げ、2年間の学習成果の発表の場とした。

キーワード：大阪・関西万博、フェスティバル・ステーション、着物ショー、浴衣、産学連携、学習成果

1. はじめに

2025年8月25日(月)大阪・関西万博(以下、大阪万博)フェスティバル・ステーションにて、大阪府美容生活衛生同業組合⁽¹⁾主催による「時をまとう、和装と髪で綴る日本の美-着物とヘア&ファッションの世界」と題した二部構成のファッションショーが開催された。そのオープニングアクトとして、大阪着物プロジェクト⁽²⁾主催の「着物ショー⁽³⁾」が開催され、大阪夕陽丘学園短期大学(以下、本学)キャリア創造学科ファッションデザインコース(以下、本コース)2年生が自作の浴衣を着てランウェイを歩いた。

大阪着物プロジェクトとは、“捨てられゆく着物や、和文化離れする世代を何とかしたい。大切な着物を、日本の文化を、次世代は もちろん世界へも伝えていきたい” そのような思いで2022年より大阪在住の主婦たちが立ち上がり、着物を着る機会づくりから始め

た非営利団体である。

大阪着物プロジェクトは、2025年2月16日(日)に“着物ショー”、“講演会”、“撮影会”が融合した「新世代の着物文化」と題したイベント⁽⁴⁾を大阪中央公会堂で開催した。ここで本コース当時1年(現2年)がモデル参加し、着物のコーディネート方法やウォーキング技術が好評であったことから、今回大阪万博での着物ショーにも本コースの学生に出演依頼を頂いたという経緯で前回より産学連携が継続した。

2月16日に参加したイベントでは、着付け講師である ayaaya 氏⁽⁵⁾の着付け教室の生徒や、大阪 YMCA 学院の留学生と共に、大阪着物プロジェクトが勧めている着なくなった着物を回収する取り組みにより集まった古着をベースに各自テーマを決め、着物に合わせる小物、ヘアメイク等を大阪着物プロジェクトのスタッフと検討しながら、定型的

な範囲内でウォーキングを行った。

しかし、今回参加する大阪万博での着物ショーでは「浴衣」を着用するということから、本コースの学生から“モノ作りができることが我々の強みである”という気持ちが湧き上がり、自身で浴衣をデザイン・制作することにした。本稿では大阪万博の着物ショーに向け、浴衣を制作・アレンジし、ヘアメイクを含めたトータルコーディネート提案と、ウォーキングの練習、本番でのショーまでの

様子を報告する。

2. 大阪万博 着物ショーへの取り組み

2.1. 浴衣のデザインと制作

本コース2年のアパレル構成実習Ⅲの中で、着物ショーで着用する浴衣制作を行った(表1)。また事前に学生各自で浴衣のテーマと浴衣のデザイン、使用生地を検討させることにより(表2)、自身のパターンの補正箇所や生地の効果的な組み合わせ方法が明確になった。

その結果、浴衣は完成後にもアレンジの手を加えたいという意見が多くあったため、それぞれのアレンジを施しやすい上衣と下衣が分離した二部式浴衣を採用した。浴衣制作に使用する生地においても浴衣用の反物にはこだわらず、各自が使用したい洋服地を使用することも可能とした。

2.2. 浴衣のデザイン意図

以下に学生の浴衣の制作意図をまとめた。

学生アは浴衣にデニム素材を使用する。パターンの補正箇所や生地の組み合わせのない

表 1. アパレル構成実習Ⅲ授業計画

授業計画	
第1回	浴衣について①(各部の名称、採寸)
第2回	浴衣について②(パターン作成)
第3回	浴衣制作①縫い代付け、裁断
第4回	浴衣制作②印付け
第5回	浴衣制作③縫製 上衣:後ろ中心、おくみ
第6回	浴衣制作④縫製 上衣:脇、裾作り
第7回	浴衣制作⑤縫製 上衣:袖付け
第8回	浴衣制作⑥縫製 上衣:衿作り
第9回	浴衣制作⑦縫製 上衣:衿付け
第10回	浴衣制作⑧縫製 下衣:ダーツ縫い、切替線、後ろ中心線
第11回	浴衣制作⑧縫製 下衣:脇、ウエスト
第12回	浴衣制作⑧縫製 下衣:前襟、裾、仕上げ
第13回	浴衣制作⑧縫製 下衣:仕上げ
第14回	着付けの練習、着装してプレゼンテーション

表 2. 浴衣のデザイン・テーマと使用生地

	学生:ア	学生:イ	学生:ウ	学生:エ	学生:オ
浴衣デザイン					
テーマ	<ゲインテージYUKATA>	<リボンの爽やか浴衣>	<大人のバラ浴衣>	<夜空の花火>	<自分らしくカッコよく>
使用生地					

ベーシックな浴衣のデザインではあるが、浴衣完成後に浴衣にダメージ加工を施すことで自分の個性を表現するという意図がある。洋服のトレンドでもあるダメージ加工を浴衣にも取り入れ、バランスをみながらやりすぎないようにすることが重要で、男性ならではの“無骨さ”や“かっこよさ”、“唯一無二感”をこの浴衣で表現する。

学生イはリボンの柄と青色の生地を効果的に組み合わせ、真夏に着用する浴衣に爽やかさを演出する。イもアと同様ベーシックな浴衣のデザインで補正はないが、浴衣完成後には上衣の裾部分にオーガンジーでフリルを3段施し、下衣の上にもオーガンジーでオーバースカートを制作する予定である。自身の好きな“かわいい”と考えるものをふんだんに詰め込んだ浴衣にアレンジしていく。

学生ウは一目ぼれしたという全面バラ柄の洋服地を使用。袖丈を中振袖程度に延長させるようパターンを補正を行う。また浴衣完成後に下衣の裾にフリルを数段付ける予定としており、イメージは洋服のティアードスカートの華やかさを取り入れる考えである。

学生エは和柄生地とレース生地を併せ、和洋折衷を意識した浴衣のデザインを行っている。

袖の下半分にレース生地を使用し、衿にもレース生地を使用する予定で、透け感と華やかさを表現する。また、下衣の丈を膝丈にパターン補正し、“普段から着ることのできる浴衣”というよりは、“舞台衣装としての浴

衣”という意識でオリジナル浴衣を制作していく。

学生オはパッチワークデニムと黄色のタータンチェックの2柄を効果的に組み合わせる。袖丈を中振袖程度に延長させる予定であるため、パターンを補正を行う。舞台上で映えることを意識したデザインとなっており、浴衣完成後には下衣の裾をカットオフしたりダメージを入れる。衿元にはスタッズ装飾を付けて和装に“ロックテイスト”を盛り込み、洋服のトレンドを取り入れ、自身が考える“自分らしさ”や“カッコよさ”を浴衣に表現する。

2.3. ヘアメイク

浴衣に合わせるヘアメイクに関しては、学生が SNS 等で自分の好みのデザインと浴衣のイメージに合うものを検索した(表3)。着物ショーの舞台は大きな照明であることから、普段の自身のメイクやヘアアレンジよりも舞台映えする華やかさがあるものを選ぶことに留意した。

またいくつかのバリエーションの画像を選び、大阪着物プロジェクトの美容スタッフに伝え、最終的に完成した浴衣とヘアメイクのイメージを固めていくこととした。

2.4. 大阪着物プロジェクトとの産学連携

浴衣制作は本コース2年の開講科目であるアパレル構成実習Ⅲで実施することとしたが、着物ショーに向けての打ち合わせはカリキュラムに落とし込むことが時間的に不可能

表3. ヘアメイクのイメージ

	学生：ア	学生：イ	学生：ウ	学生：エ	学生：オ
イメージ画像					
出典	Pinterest	tomida yuki Instagram	hairset-ups.com	luckyahmad.hairstyle Instagram	Ocampo Claudia Instagram

であったため、大阪着物プロジェクトの代表である高森氏、副代表の楠氏と着物ショーに出演するモデルたちとでLINEグループを作成した。

LINEの中では浴衣にコーディネートしたい小物や、ヘアメイクのイメージ等、必要事項はノート機能を活用して各自が記入していくこととした。また実際に打ち合わせが必要な場合はLINEミーティング等オンラインでやり取りを行った(写真1、2)。

着物ショー本番までは非常にタイトな日程であったが、LINEでの打合せを6回、ウォーキングを含めたりハーサルを2回実施した。

- ・7/29 オンラインミーティング
- ・8/7 hair make cherryで打合せ
- ・8/11 オンラインミーティング
- ・8/17 オンラインミーティング
- ・8/17 hair make cherryでウォーキング
- ・8/18 本学でウォーキングとヘアメイクリハ



写真2. LINEミーティングでの打合せの様子②



写真1. LINEミーティングでの打合せの様子①

2.5. 着物ショーの構成

着物ショーは前述した通り大阪・関西万博において大阪府美容生活衛生同業組合主催のショーのオープニングアクトとして実施されるショーである。ショーの時間は5分、参加モデルは本学の学生5名と ayaaya 氏の着付け教室の生徒、大阪着物プロジェクト会員の関係者など若者ばかり10名で構成される。わずか5分という短い持ち時間ではあるが、浴衣という日本文化を世界の人々に見てもらいたい、知ってもらいたいという思いから、着物ショーの構成自体を学生が意見を出し合いウォーキングの構成や音響、映像を検討していった。

着物ショーの第一部には本学の学生が自

作の浴衣で出演、第二部には ayaaya 氏の着付け教室の生徒が自前の浴衣で出演、第三部には大阪着物プロジェクト会員の関係者が 354TRIVE/ミコシライブ⁽⁶⁾ からアプリカプリントの浴衣の提供を受け出演する

等、それぞれのモデルたちの特色を強調した。

以下の表 4～9 は本学の学生用のウォーキング台本である。持ち時間が 5 分しかないため、MC は浴衣の紹介箇所を何度も読み合わせして秒単位で時間調整した。

表 4. 本学学生の台本①

SPEAKER	COMMENTS&ACTION	STAGE LAYOUT	P1
大阪着物プロジェクト 会長：高森	みなさんこんにちは！ 大阪着物プロジェクトは着物好き主婦達が主ですがみなさんが「お中元としなまか」を取り組んで、どうしたら着物をもっと簡単に普段に取り入れられるか、まずは着物を着て楽しもう！と始まったプロジェクトです。 今回のショーのテーマは、たくさんの方に気軽に着物に触れてほしいという思いから『日常の着物』をテーマに「浴衣をファッションの一つとして取り入れ、学生着典で浴衣を仕立てたり、外国の生地や浴衣を取り入れたりと、地域の着姿などにもこのショーを盛りあげました。		
大阪着物プロジェクト 副会長：橋	では着物ショーのスタートです！ トップバッターを務めるのは大阪少隣丘学園短期大学ファッションデザインコースの皆さんです！ 今回のショーのために、それぞれがオリジナルで浴衣を制作。①学生②学生③学生④中央へ		

表 5. 本学学生の台本②

SPEAKER	COMMENTS&ACTION	STAGE LAYOUT	P2
橋	①学生④ (前方へ) 「真夏の浴衣ブルー系に、大粒なリボンがたっぷり。レースをあしらひ、裾で可愛らしい仕上がりになりました。自分らしさが光る一着です。」 終幕は待機		
	②学生③ (前方へ) 「一目惚れしたバラ柄の帯を合わせ、シックな仕立。涼やかなポイントに彩る。無二のコーディネートで人の好みを満たしました。」		
	①学生②学生③ ④は右へ移動 手前に戻る		

表 6. 本学学生の台本③

SPEAKER	COMMENTS&ACTION	STAGE LAYOUT	P3
橋	③学生④ (前方へ) 「電光石火の早やかな着柄に、柄と柄にはレースをあしらひ涼しげな印象の可愛いスタイルに仕上げました。」		
	③学生④ (前方へ) 「暑らしき空際！涼いデニム生地を使い、ダメージ加工で個性をプラス。ユニークで存在感あるスタイル！自分らしさを溢れさせています。」		
	①学生②中央へ ④は右と同時に ③学生④中央に戻る		

表 7. 本学学生の台本④

SPEAKER	COMMENTS&ACTION	STAGE LAYOUT	P4
橋	③学生④ 「チェック柄とデニムを大胆に組み合わせ！袖を長くしたりスカートにストリートを入れるなど、浴衣の常識にとらわれない個性あふれる。動きに合わせて着た人が変わる、印象的な一着です。」		
	③学生④の合間で全員前へ進む		
	③学生④の上半分間で①学生②学生③下半分間で④学生⑤学生⑥学生⑦学生⑧学生⑨学生⑩学生⑪学生⑫学生⑬学生⑭学生⑮学生⑯学生⑰学生⑱学生⑲学生⑳学生㉑学生㉒学生㉓学生㉔学生㉕学生㉖学生㉗学生㉘学生㉙学生㉚学生㉛学生㉜学生㉝学生㉞学生㉟学生㊱学生㊲学生㊳学生㊴学生㊵学生㊶学生㊷学生㊸学生㊹学生㊺学生㊻学生㊼学生㊽学生㊾学生㊿学生		

表 8. 本学学生を含む台本⑤

SPEAKER	COMMENTS&ACTION	STAGE LAYOUT	P7
高森	大阪着物プロジェクトは2022年に発足、着物を着る機会を増やしたと好評1,2回ここ大阪でものイベントを実施しています。 大阪YMCA学院など留学生在に浴衣を体験してもらったり、今回は大阪少隣丘学園短期大学の学生に実際に浴衣を着せたりもしい、学生に日本の文化を少しづつ浸透して来たかと実感しています。 今年の7/15には大阪府高校生着姿同業組合の五種競技をいいただき、大阪府中体公会堂にて1,000人イベント開催、多くの方に着物の知識をお伝えしてきました。		

表 9. 本学学生を含む台本⑥

SPEAKER	COMMENTS&ACTION	STAGE LAYOUT	P8
	大阪・関西万博までまだ着物の着ることのできる期間です。皆様ぜひ世界に向けて日本の着物の美しさを観てもらいませんか？ 〔アフランスが関わったらモデルは左右にはける〕		

2.6. 最終コーディネート決定とリハーサル

アパレル構成実習Ⅲで浴衣とアレンジが完成した後、8月18日(月)本学において着付けとヘアメイクのリハーサルを実施した(写真3、4、5)。また本学の講堂においてフェスティバル・ステーションの舞台を想定したウォーキングリハーサルも実施した(写真6、7)。この時点で、ほぼ着物ショー当日のモデルの最終ビジュアルが出揃った。

以下は本コースモデルの浴衣の制作意図と制作の解説、最終コーディネートをもとめたものである。

〈学生：ア〉

- ・普段から古着が大好きでよく着ているので、浴衣もデニム生地を選び、裾のカットオフ

や身頃のダメージ加工を施して古着感を表現したところが最大のポイント。

- ・ダメージは全体に入れるのではなく、上衣の左身頃と左袖、下衣を中心に良いバランスを探しながら入れた。
- ・生地「みみ」の部分捨てずに衿部分に付け、生地を可能な限り使用してSDGsも意識した。
- ・着付けが大変に思うのではなく、気軽に浴衣を着て楽しんでいる様子を見て欲しかったので敢えて帯を締めず、普段から着用している自前の茶系の革ベルトを締めることにした。

〈学生：イ〉

- ・リボンが大好きで青系のカラーも好きなので、自分の好きなものを詰め込んだ浴衣を



写真3. ヘアメイクリハ①



写真4. ヘアメイクリハ②



写真5. ヘアメイクリハ③



写真6. 講堂でのウォーキングリハーサル①



写真7. 講堂でのウォーキングリハーサル②

制作したところがポイント。

- ・上衣の裾部分にフリルを施し、下衣の上にオーバースカート風にオーガンジーでスカートを制作して重ね着風に浴衣を楽しむようにデザイン・アレンジをした。
- ・差し色となるピンクの帯をベースに、二重に重ねたシルバーの帯締めとサンダルのシルバーでインパクトを出した。
- ・比較的私の浴衣はベーシックで、ショーに出るメンバーの中では普通な感じがしたので、アレンジ力を駆使して舞台に立っても地味にならないように工夫した。

〈学生：ウ〉

- ・ショーでは高身長が目立つので良いとのことだったので、袖丈が1mの中振袖くらいの長い丈にしてウォーキングの際にも存在感を出していきたい。
- ・下衣の裾部分にティアード状のフリルを付け華やかにして、高身長のI(アイ)ラインを強調できるデザインにした。
- ・帯も黒のバラ柄を使い、浴衣のバラ柄との統一感を狙った。
- ・ポイントカラーとして、赤のレザーのヘアアクセサリを敢えて帯留めに使用したところもポイント。

〈学生：エ〉

- ・夏の花火を思わせるプリント柄と黒のレース生地の異素材を組み合わせたところがポイントで涼しさを演出できたと思う。
- ・下衣がひざ丈と短いので足元がよく見えることから、黒のレースアップのサンダルを合わせて和洋折衷にした。
- ・浴衣が異素材の組み合わせでインパクトがあるので、帯は帯締めや帯留めを使わずシルバーオンリーにしてシンプルさを重視した。

〈学生：オ〉

- ・浴衣制作で使いたかったパッチワークデニ

ムの生地を使った。それと黄色が好きなので、黄色のタータンチェック生地も併せて2種類の異素材生地で浴衣を制作した。

- ・ウエストを帯ではなく、太ベルトで軽く締めて、浴衣は羽織り感覚でカジュアルにコーディネートしているところで、若者に気軽に浴衣を着てもらいたいという気持ちを表した。
- ・インナーの黒Tシャツと黒ショートパンツを敢えて見えるように衿元と下衣を開けてコーディネート。黒のロングブーツで着物の堅苦しいイメージを払拭し、洋風のアイテムでカジュアル感を出した。

3. 大阪・関西万博 着物ショー

2025年8月25日(月)大阪万博フェスティバル・ステーション⁽⁷⁾にて、大阪着物プロジェクト主催の「着物ショー」が開催され、本コースの学生が自作の浴衣を着てランウェイを歩いた。

現地でのリハーサルは14時からで、本番のショー開始は17時となる。フェスティバル・ステーションの屋内イベントスペースは通常約800名収容可能であるが、前方にLEDビジョンとフルサイズステージを置き、後方には照明・音響・映像のオペレーションブースを設置すると、最大336(内24席分のスペースを車いす6台分の席として使用)の席数となった(図1)。

会場は14時からのリハーサルから多くの観客が集まっており、その中でも大阪府美容生活衛生同業組合の関係者が多くみられたが、フェスティバル・ステーションは予約なしで誰もが自由に開催イベントを鑑賞できるとのことで、外国人観光客の顔も多く見られ、17時からのショー本番には満席となった。

以下の写真8、9はステージ上での司会と映像の様子で、写真10～18は着物ショー本番のランウェイの様子である。

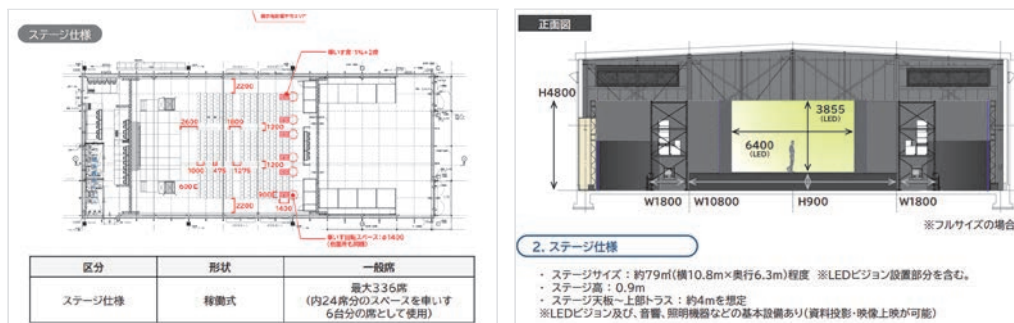


図1. フェスティバル・ステーションのステージ仕様



写真8. 着物ショー総合司会の様子

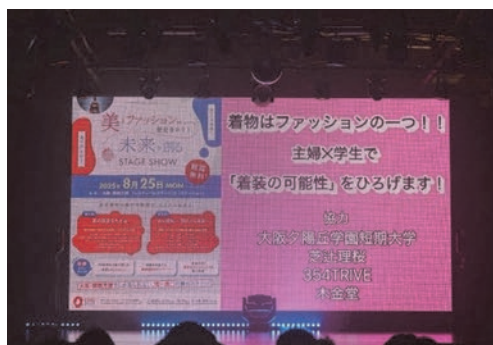


写真9. 着物ショーステージ映像の様子



写真10. 学生アのランウェイ



写真11. 学生イのランウェイ



写真12. 学生ウのランウェイ



写真 13. 学生エのランウェイ



写真 14. 学生エのランウェイ



写真 15. 本学の舞台構成①



写真 16. 本学の舞台構成②



写真 17. フィナーレの様子①



写真 18. フィナーレの様子②

4. おわりに

今回実施された着物ショーは、5分という短いショーであったが、リハーサルの時点でほぼ満席、17時からのショー本番には立ち見が出るほどの観客の興味の高さを物語るように、大成功を収め終了した。

外国人観光客や、ベビーカーの親子連れも観客に見られ、当初大阪着物プロジェクトが掲げた“たくさんの人に気軽に着物に触れてほしい”という目標は達成できたのではないかと考える。

着物ショーが終了して学内に戻ってから、本学の学生たちに今回のショーが決まっからの気持ちや浴衣制作について入試広報課がインタビューし、インスタグラムにて発表した⁽⁸⁾。以下の表10には学生の回答をまとめた。

インタビューの回答から、学生にとってこのような大きな舞台でのモデル依頼に大きな感謝の気持ちを持っており、モデル出演する中でモノ作りができる本学本コースだからこそこのプライドを持ち、浴衣制作とともに

表 10. 大阪万博での着物ショーについて学生インタビュー回答書

	学生：ア	学生：イ	学生：ウ	学生：エ	学生：オ
Q1:万博でショーが決まった時の気持ち	大阪万博のような一生にあるかかないかの大きな舞台でショーができると思っていたので、最高に嬉しかったです。ショーの話を聞いて、友達と家族にすぐに伝えました。	大阪万博は今年しか開催していないので、そんな特別な場所でのショーに出演できるなんて信じられない！いい記念になるとワクワクして家族や友人に自慢しました。	大阪は自分の地元だし、自分の周りも万博に多く遊びに行っているの、自分がそこでショーに出演できるとは思ってなくてびっくりしました。直ぐに親に伝えました。	万博というものが関西で開催されていることだけでもラッキーなのに、そこで私たちがショーに出られるなんてびっくりの気持ちが大きかったです。両親にすぐに伝えました。	めちゃくちゃ嬉しかった！目立つことが大好きなので、今度は万博でショーができるなんて嬉しすぎました！すぐに家族や友人に伝えました。
Q2:準備や本番までの工程で大変だったこと	浴衣が完成した後、ダメージを入れたりするアレンジが皆より多くあったので大変だった。	自分なりの浴衣で自分をプロデュースするのは楽しかったけど、皆で構成や音楽、映像を考えるのが大変だった。衣装以外でも自分がプロデュースする仕方を学べた。	いちから浴衣を作るのが大変だった。しかもデザインも自由ということだったので、アイデアは浮かぶけど、それを形にできるのが不安だった。	着物ショーに出る10人がなかなか揃うことができなかったので、短期間でウォーキングの練習をするのが大変でした。	浴衣を一から作るのが大変だった。選んだ生地がふ厚かったの、ミシンの針が折れたり手縫いの時は指が痛かった。袖丈を長くした分余計に大変だった。
Q3:浴衣のテーマなぜそのテーマにしたのか	<ヴィンテージYUKATA>自分が古着が好きでよく着ているし、浴衣にも自分の好きな系統を投影したいと思ったから。フリルやオパール浴衣を作りたいと思ったから。	<リボンの爽やか浴衣>私の好きなリボンとブルー系の生地を使って、自分の大好きを閉じ込めた浴衣にしたかったから。フリルやオパールコートでより一層可愛くアレンジできて大満足です。	<大人っぽいバラ浴衣>どんな浴衣にするか考えながら生地を見に行き、バラの模様一目ぼれしました。元々身長が高いということを活かした浴衣にしたかったので、「総柄」を選びました。	<花火>花火の華やかなイメージの柄と、暗い夜をイメージした黒のレース生地を浴衣を作りたいと計画しました。袖の下半分がレースなので、真夏でも涼しさを感じるようにしました。	<自分らしくカッコよく>一から自分で作るものだから、自分を表現した最高にカッコいいものを作ろうと思ったから。人と被るのが嫌だから、自分にしかない浴衣を作ろうと思ったから。
Q4:学生生活で経験して印象深かったこと	2月に大阪中央公会堂で開催された着物ショーに出れたこと、8月大阪万博で開催された着物ショーに出れたこと。このイベントを通してクラスの皆と仲が深まった。	やはり今年の、4月から10月の半年間にしか開催していない万博でのショーに出演できたことが一番印象深かったです。きっと一生を通して思い出になると思います。	着物ショーに2回も出演できたこと。オープンキャンパススタッフに参加したことで、色々な人と関わることができ、運営側や裏方の気持ちを知ることができた。	2月にも着物ショーに出演させてもらって、また8月も大阪万博という、より大きな舞台で着物ショーに出演させてもらったことが印象に残っています。	服作りや浴衣作りを学べてよかった。今は服作りを学べる学校が少なくなってきたので、大阪夕陽で服作りをできてよかった。
Q5:大阪万博着物ショーについて思うこと	人生で一度しかない経験ができて嬉しかった。リハーサルのステージと本番が急に変更になったけど、僕たちは学内のショーの経験も多いので臨機応変に対応でき、この着物ショーに出る大阪夕陽以外のモデルさんにも色々教えることが出来て、自分自身でも成長を感じることができた。舞台上上がっても緊張せず堂々と自分のパフォーマンスをすることが出来た。	こんな大きな本格的な会場で、自分の作った浴衣を多くの人にってもらえて感激しました。観客の中には外国人の人もいて、日本の文化を知ってもらえたかなと嬉しい気持ちになりました。こんな経験は他の大学ではできないと思うので、大阪夕陽に入学して、このメンバーでショーを作り上げることができて本当によかったと思います。	1回目の着物ショーはそこにある着物の中から自分の好みの着物を選んで、着物のコーディネートやヘアメイクも大阪着物プロジェクトのスタッフさんにアドバイスをもらって感じただけで、2回目の着物ショーでは自分の好みの浴衣をいちから作られたし、音響・映像・演出まで自分たちで意見を出し合っってショーを作れたのがいい経験だと思った。	万博の着物ショーが夏休み中だったので、ウォーキングの練習の時間が足りないと感じた。ショーに出るメンバーで演出面はもっと意見を出して構成を考えたいと思った。	万博の着物ショーに出れたことは勿論だけど、大阪夕陽は服作りを学んでいるから私達は浴衣を自分で作ってショーに出ることができたことが特に良かったと思った。自分でも浴衣を作れるとは思ってなかったの自分も成長したと感じた。卒業が近くなってくるけどこんなイベントにはもっと参加したいと思った。

ショーの構成やウォーキングにもリーダーシップを取り懸命に努力した様子がかがえる。

大阪中央公会堂で開催された2月16日のショーでは与えられた台本と決められたウォーキングの構成で、受動的な意識の参加であったが、今回の着物ショーに関しては学生たち本人から浴衣の自作とショーの構成企画から積極的に取り組み、能動的な意識で参加でき、自分自身の成長が感じられたとの声があった。

また、大阪着物プロジェクトの高森氏や楠氏からは、まず浴衣を自分自身で制作できることが本学の強みであること、何事にも素直に取り組み、ヘアメイクの提案やウォーキングの構成を検討する際には、本学のリーダーシップが光っており、お互いがしっかりフォローしあえていることに感心しきりであったとの意見を頂いた。

本コースの学生は、1年次よりオープンキャンパス・夏のサマーフェスや学園祭で開催しているファッションショーで自身がモデルとなりランウェイを歩いており、その経験から物怖じせず大きな舞台にも立てていると感じる。今回の大阪万博で開催された着物ショーの前段に、2月16日大阪中央公会堂で開催された着物ショーがあった訳だが、本コースの学生のウォーキングや着こなし提案が素晴らしかったことから、再度モデルの依頼を頂いた。学生たちが何事にも手を抜かず誠意を込めて取り組んでいる結果で誇らしいことである。

またこのように本学の地元である、大阪で万博が開催されていたこと、本学が夏期間中であったこと、そして大阪着物プロジェクトから本コースの学生にモデル依頼があったこと等の幸運が重なり、このように大阪万博でのショーが成功した。参加できた学生にとっても、本学にとっても、一生に一度の大変貴重な経験となったことは、現在準備をす

すめている近鉄百貨店のハルカス学園祭への商品出店や、本学の夕陽祭でのファッションショーへの高いモチベーションに繋がっている。

今後も学生にとって有意義となるイベントには積極的に参加し、学生のモチベーションの向上の一助になれるよう取り組んでいきたい。

謝辞

今回、大阪・関西万博での着物ショーを企画下さり、本学の学生をモデルとして起用して下さい下さった大阪着物プロジェクトの皆さま、学生の着付けやヘアメイクを担当下さったスタッフの皆さま、ショーの様子を撮影下さったカメラマンの皆さま、本学の学生とともに着物ショーを盛り上げて下さったモデルの皆さまには深く感謝申し上げます。

文献

- (1) 大阪府美容生活衛生同業組合
<https://ba-osaka.com/>
- (2) 大阪着物プロジェクト
<https://okimono.site/>
- (3) 着物ショー
<https://www.instagram.com/p/DN4KBACE6S1/>
- (4) 新世代の着物文化
<https://weekly-osakanichi2.net/archives/27072>
- (5) ayaaya 氏
<https://www.instagram.com/ayaayaskimono/?hl=ja>
- (6) 354TRIVE / ミコシトライブ
<https://www.instagram.com/354trive/>
- (7) フェスティバル・ステーション
https://www.expo2025.or.jp/expo-map-index/main-facilities/festival_st/
- (8) 本学インスタグラム
<https://www.instagram.com/>

reel/DOCx_eQDlw_/?igsh=
ZHpKMG14Y2hoOTg3

Record of Participating in the Osaka–Kansai Expo 2025 Kimono Show; Walking in a Self-Made Yukata

Aya SHIRASAKA

Osaka Yuhigaokagakuen College

Abstract

The Osaka–Kansai Expo, which opened on April 13, 2025, concluded after a 184-day run. In addition to experiential pavilions from various countries, the Osaka–Kansai Expo featured Festival Stations where private organizations could engage in various forms of communication and interaction.

At this festival station, a kimono show organized by the Osaka Kimono Project was held as the opening act of a fashion show hosted by the Osaka Prefecture Beauty and Hygiene Cooperative Association, with second-year students from our university's Fashion Design course walking the runway.

The students designed and created their own original yukatas, and also planned how to style them along with hair and makeup designs. They collaborated with the Osaka Kimono Project through industry-academia partnerships to develop the runway structure and prepare the MC scripts for introducing their yukatas, creating the kimono show with their own hands and using it as an opportunity to present the results of their two years of learning.

Keywords: Osaka–Kansai Expo, Festival Station, Kimono Show, Yukata, Industry–academic collaboration, Learning outcomes

